

独立行政法人
国立病院機構 **長崎医療センター**

腫瘍集計報告

2022

NATIONAL
NAGASAKI
MEDICAL CENTER

2022年1月～2022年12月



卷頭言

2022年の長崎医療センターのがん登録腫瘍集計報告書が出来上りました。

長崎県でのがん登録の歴史は古く、1958年に長崎市医師会が、放射線影響研究所と国立予防衛生研究所が協力する形で長崎市腫瘍統計事業として始まりました。その後、地域がん登録として「長崎県がん登録・評価事業」が1984年に開始されました。そして2016年1月の「がん登録等の推進に関する法律」の施行により全国がん登録が開始され、2016年以降は「長崎県がん登録・評価事業」も、全国がん登録を構成する都道府県がん登録として実施されました。一方、長崎医療センター独自の院内がん登録は2004年から開始しています。

がん登録とは、患者さんが初めてがんが診断された時の状況に加えて、その後の患者さんの状況も登録、把握、分析する仕組みであり、がん患者数、罹患率、生存率、治療効果の把握など、国のがん対策の基礎となるデータを把握するために大切なものになっています。

私が専門としている肝臓がんの発生状況に着目すると、新規に診断される肝臓がん患者数は、この10年間で減少しました。その理由は、肝臓がんの原因となるC型肝炎ウイルスが新規に開発された抗ウイルス治療法によって容易に駆除されるようになったからと考えています。これは、がんの原因を除去することより、がんの新規発生を抑制した典型的な成功事例と言われています。その一方で、肝臓がんの患者さんの総数は減っているにもかかわらず、肝臓がんの原因は変化しています。実は、かつては病気が進行しないと言われていた脂肪肝から肝臓がんを併発した患者さんの実数は増加し、特に九州の非ウイルス性の肝がん患者数は、この20年間に8倍近くに増えたことが報告されています(Nakano M.Yatsuhashi H.et.al:Sci Rep 2022)。生活様式の変化、すなわち、食生活が変化し、飲酒量も増えて、運動量も減ったことがその原因と考えられており、これらの肝がんの原因対策は、食生活の改善、適度な飲酒、運動療法などの生活様式の改善が大切と言われるようになりました。

がん登録は、過去のがんの状況を分析することにより、未来のがんの状況を予測し、がん対策を考える上で貴重な資料です。がん登録には、多くの方々の理解と協力が必要です。引き続き関係者の方々のご協力をお願いしたいと思っています。

2023年12月

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター
院長 八橋 弘

目 次

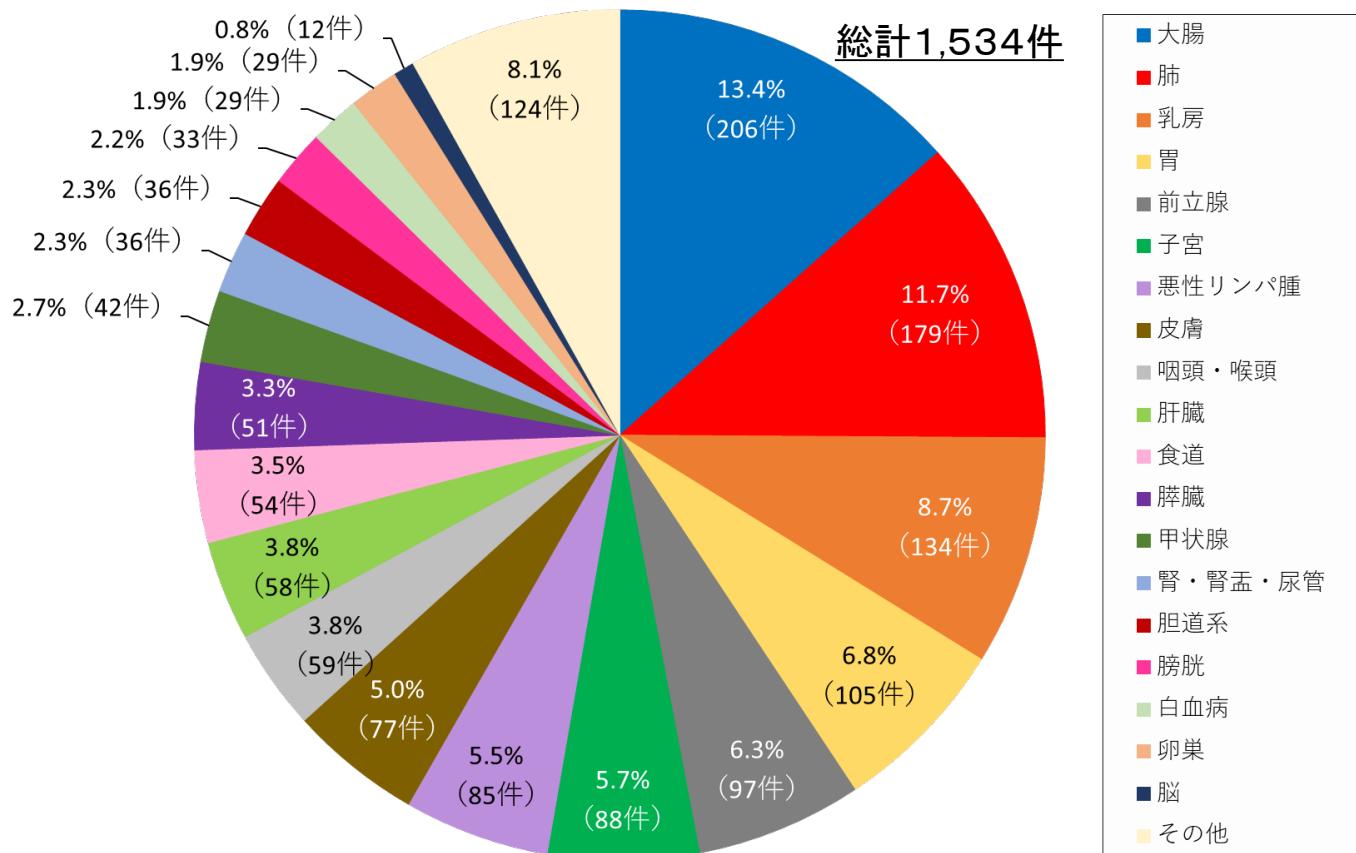
<腫瘍集計報告 2022>

全がん 部位別登録件数	1
全がん 部位別登録件数 [男性]	1
全がん 部位別登録件数 [女性]	2
全がん 年齢別登録件数	2
年齢別登録件数 [男性]	3
年齢別登録件数 [女性]	3
地域別登録件数 [全臓器]	4
地域別登録件数 [胃]	4
地域別登録件数 [大腸]	5
地域別登録件数 [肝臓]	5
地域別登録件数 [肺]	6
地域別登録件数 [乳房]	6
来院経路 (地域別)	7
発見経緯 (5大がん)	7
初回治療方法	8
胃がん 初回治療内容	8
大腸がん 初回治療内容	9
肝がん 初回治療内容	9
肺がん 初回治療内容	10
乳がん 初回治療内容	10

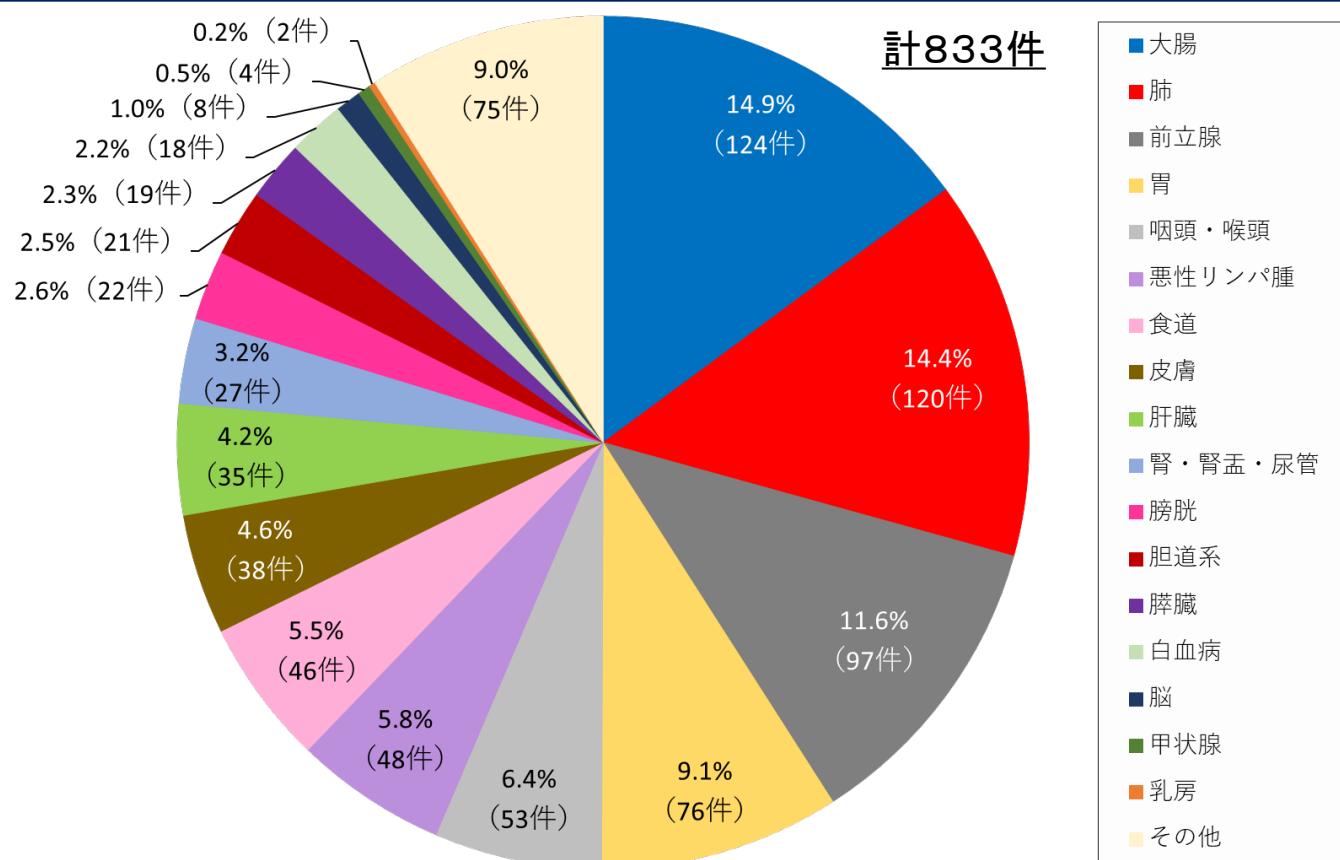
<2018～2022 年次推移>

登録件数 (5大がん) の推移	11
初回治療方法 (胃) の推移	11
初回治療方法 (大腸) の推移	12
初回治療方法 (肝臓) の推移	12
初回治療方法 (肺) の推移	13
初回治療方法 (乳房) の推移	13
来院経路の推移	14
発見経緯の推移	14
編集後記	15

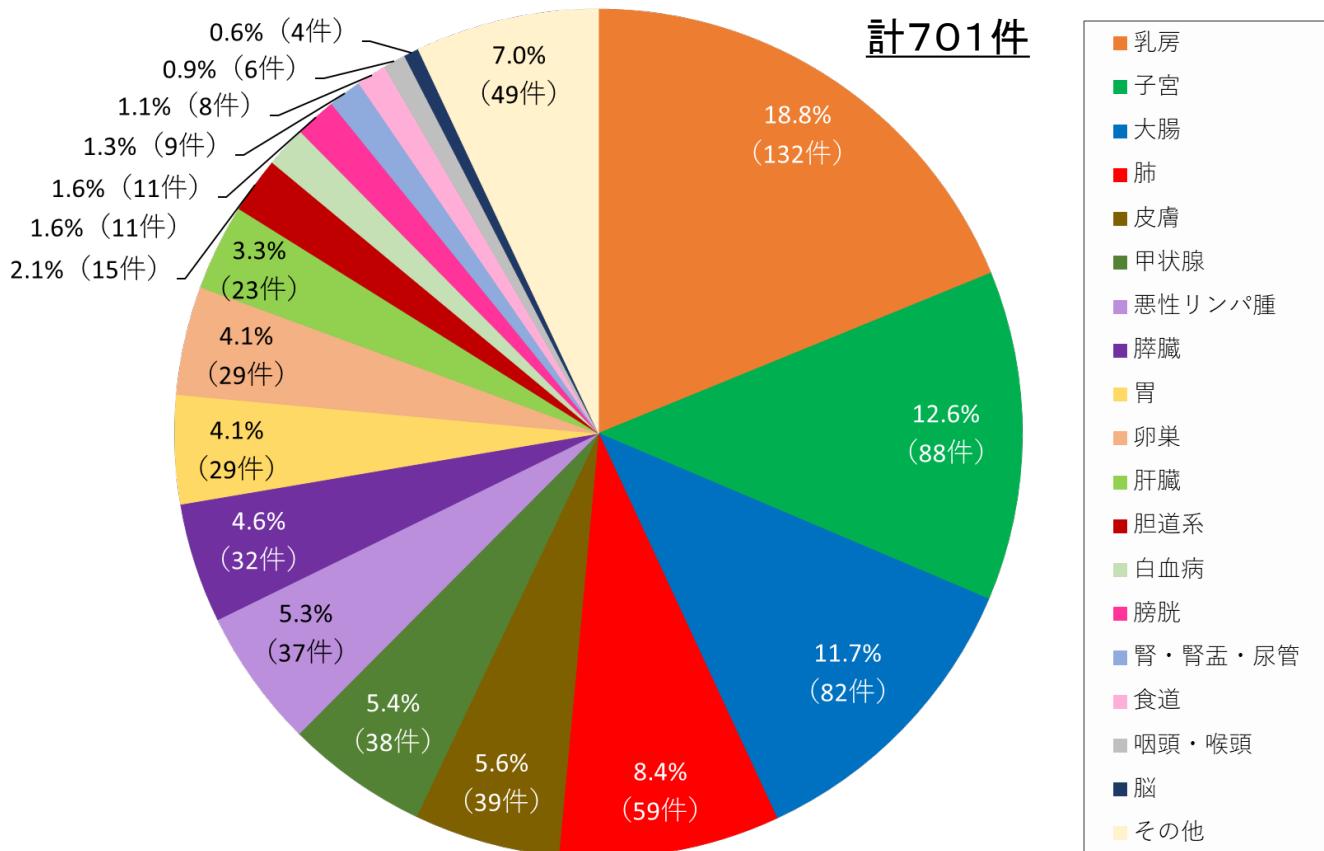
全がん 部位別登録件数



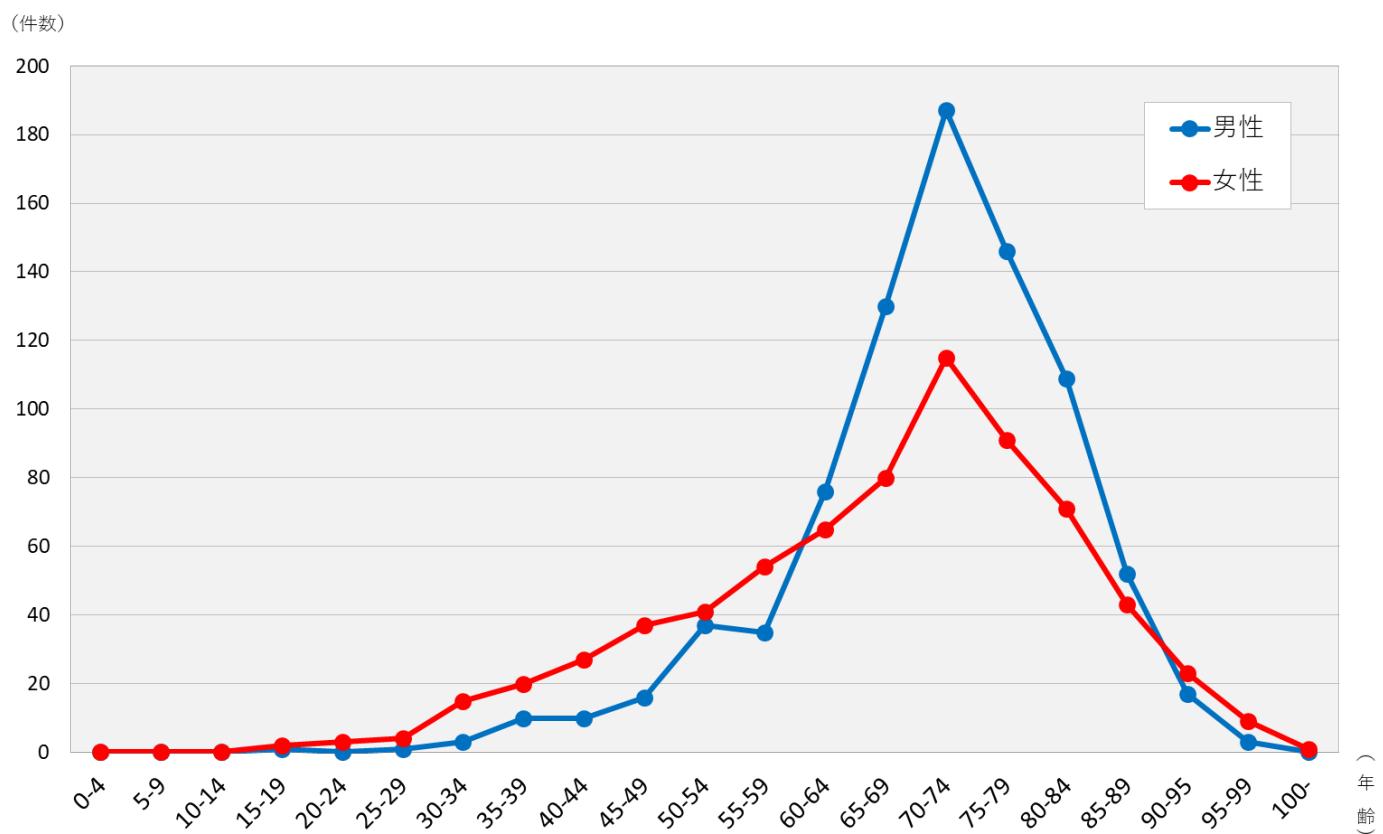
全がん 部位別登録件数〔男性〕



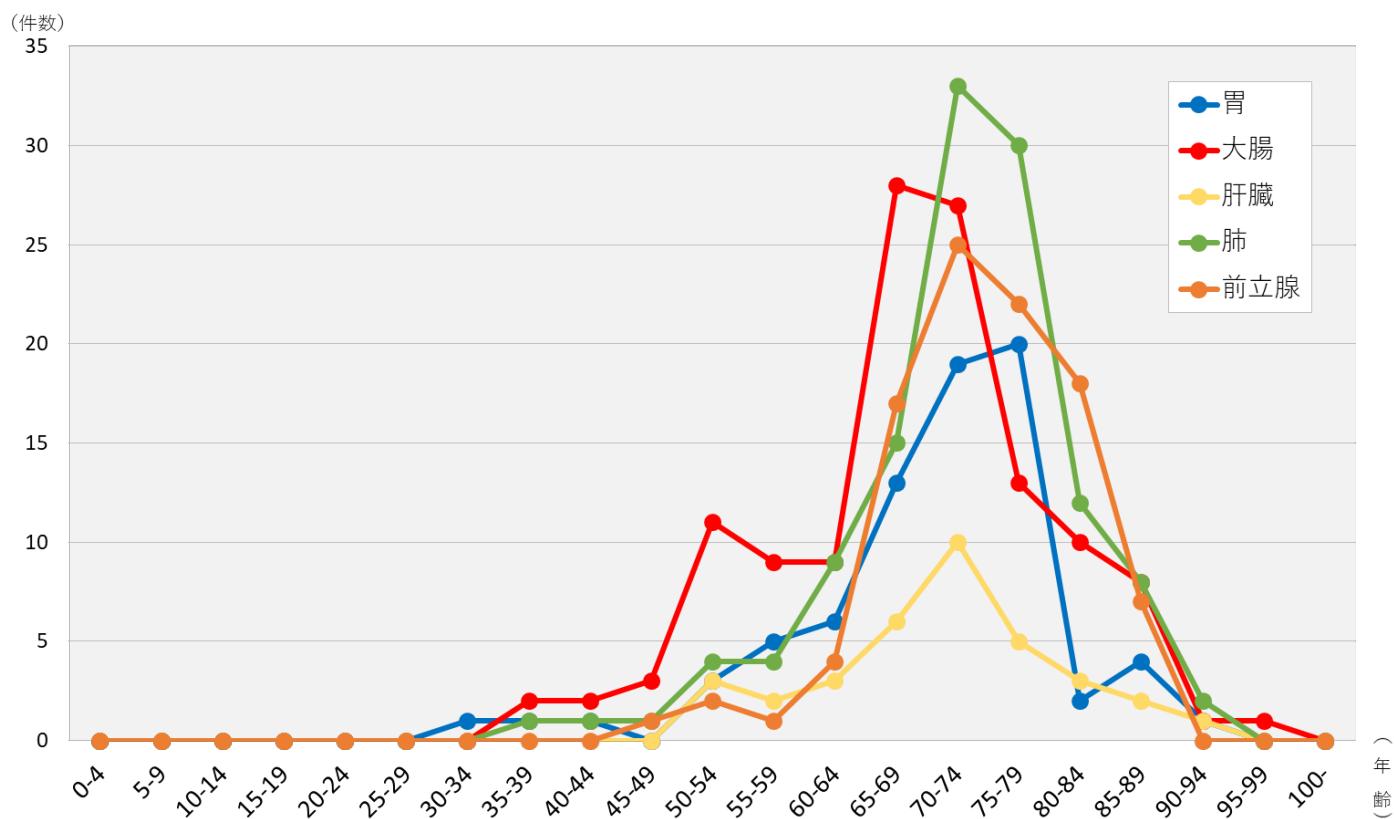
全がん 部位別登録件数 [女性]



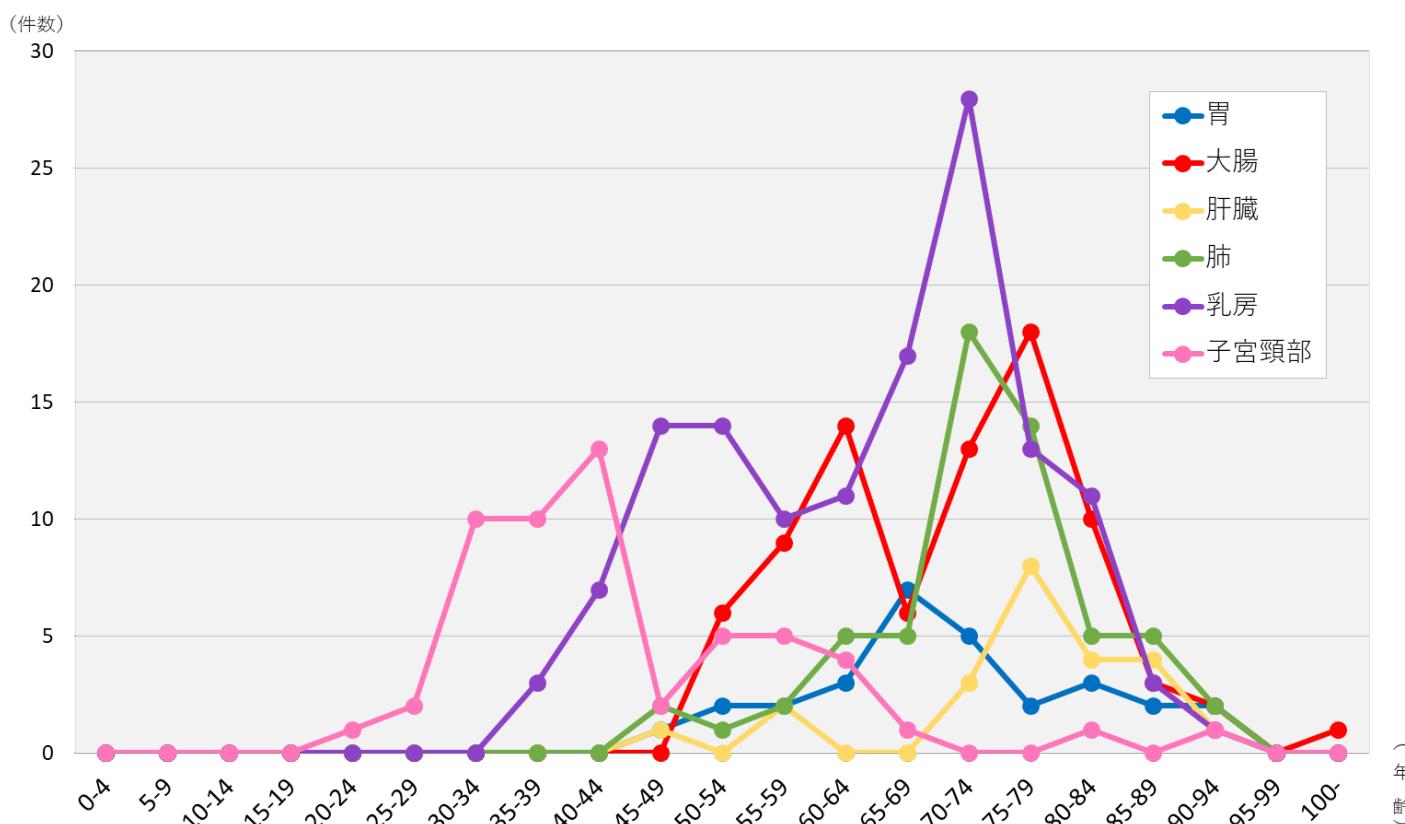
全がん 年齢別登録件数

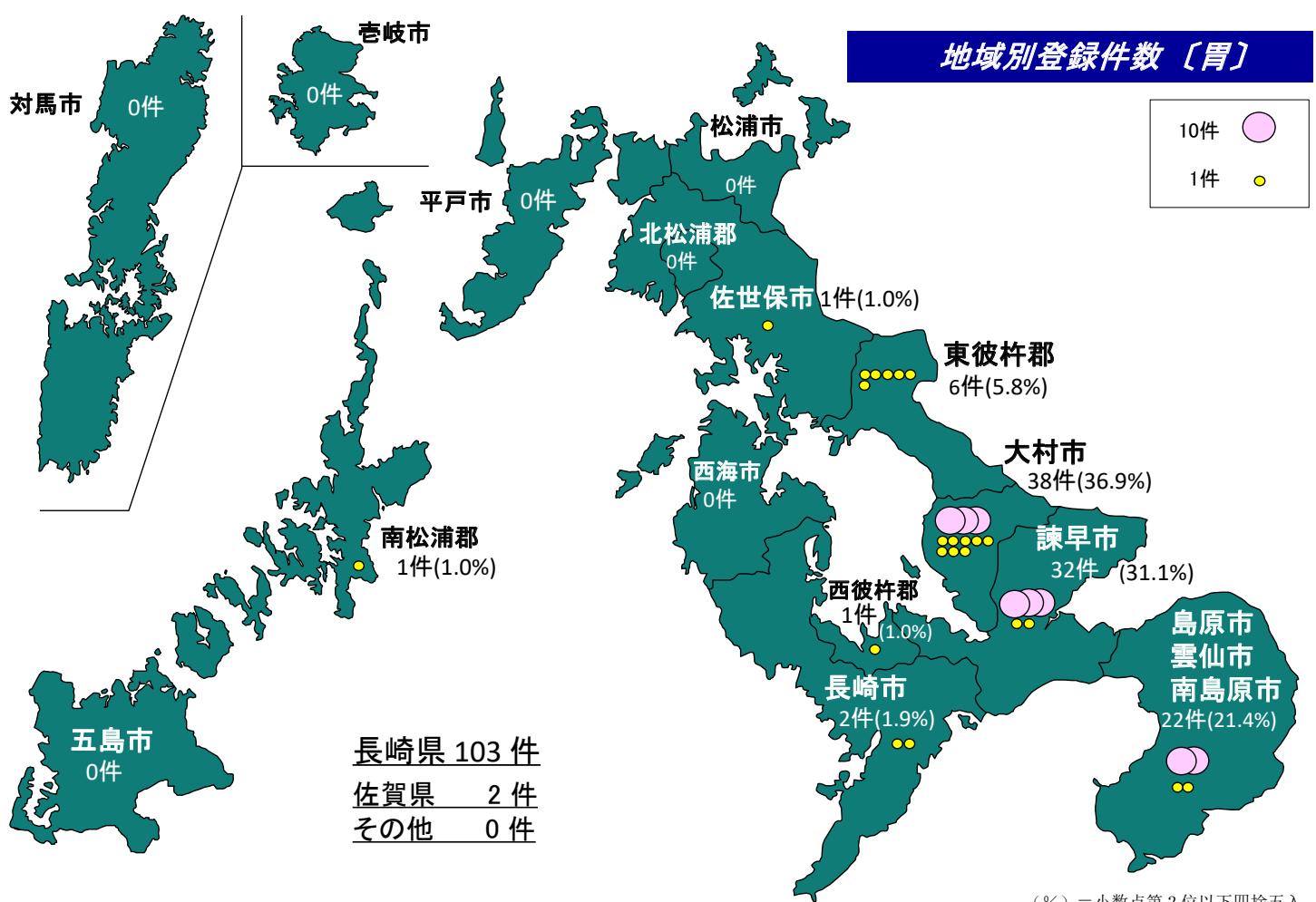
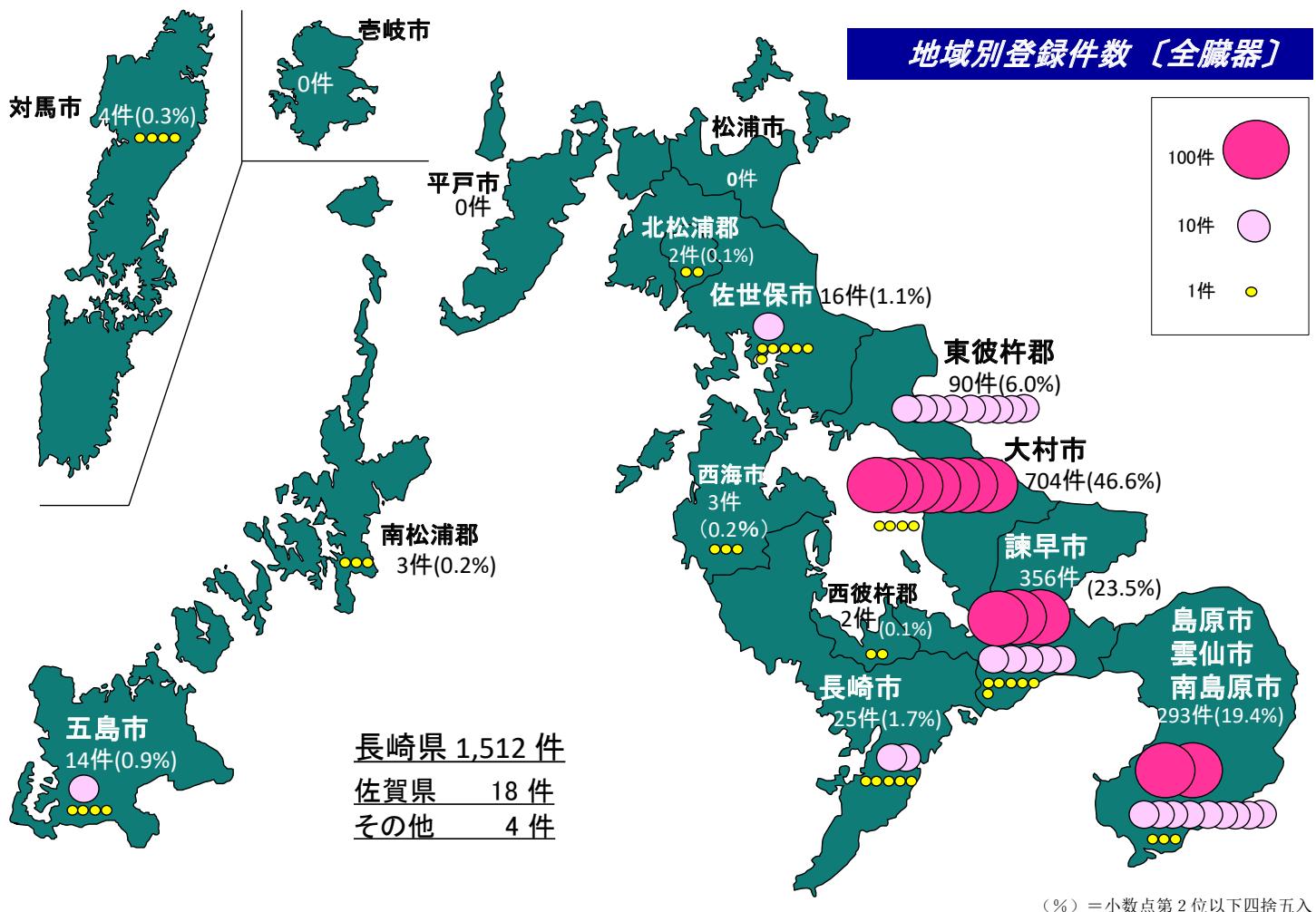


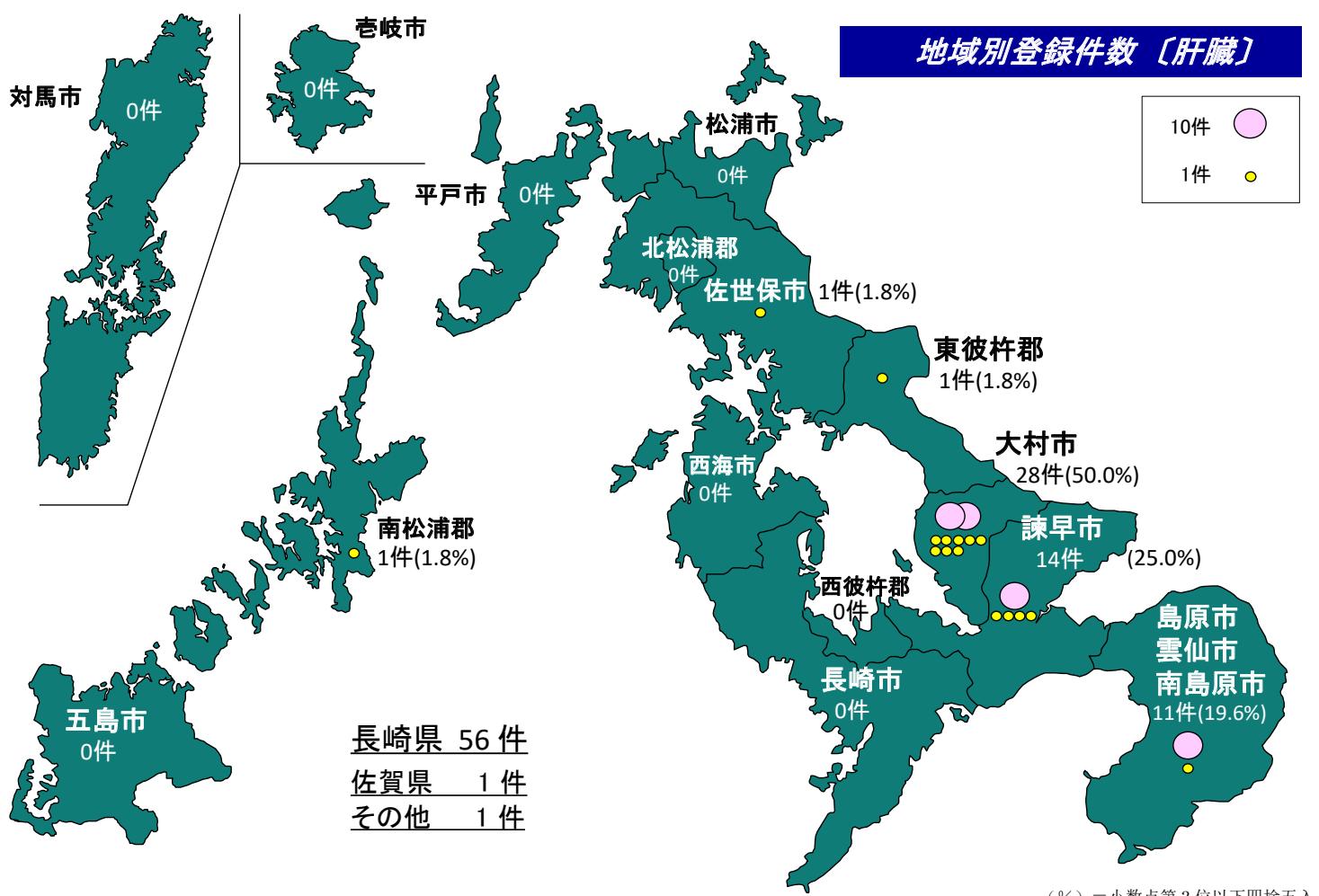
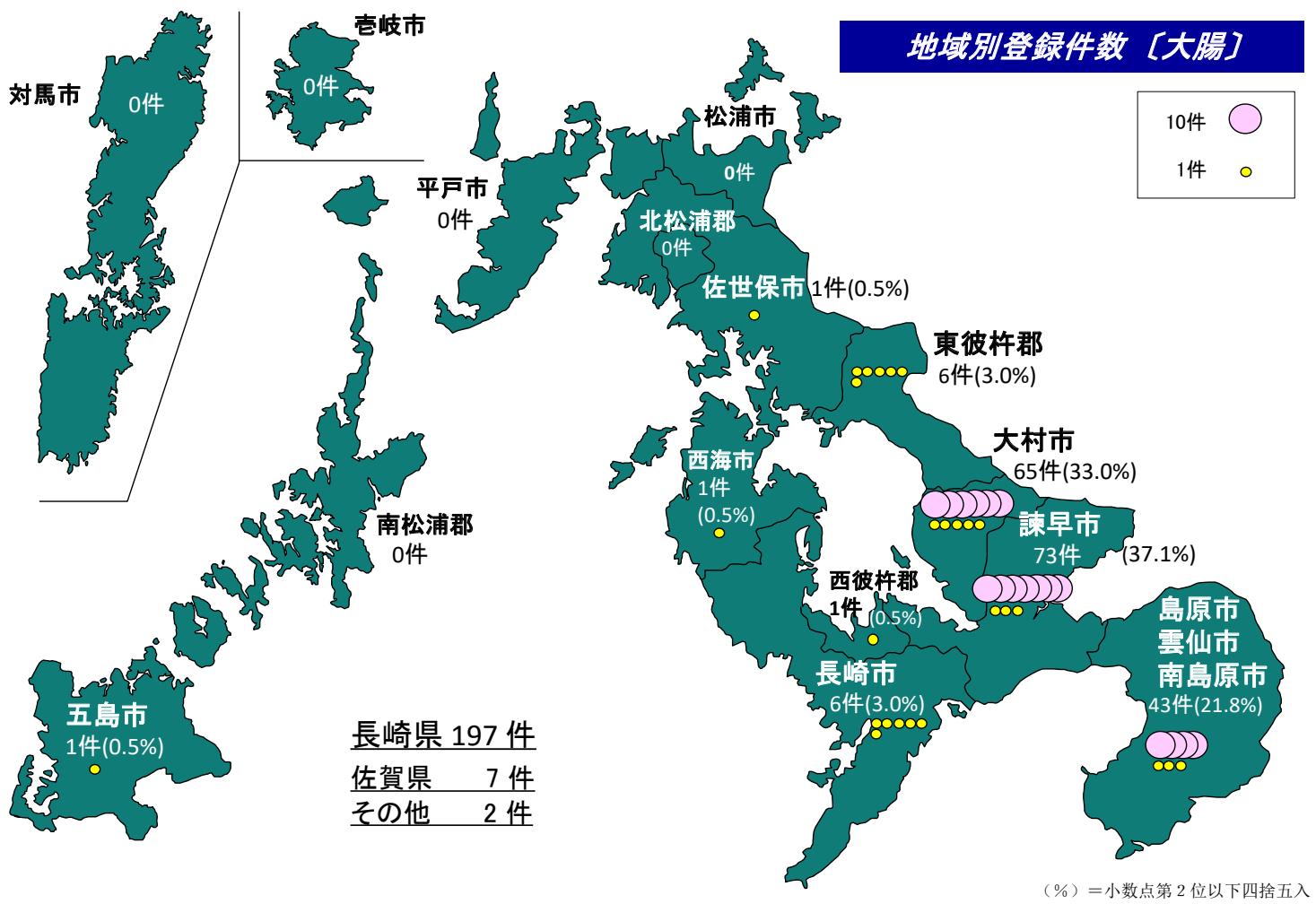
年齢別登録件数 [男性]

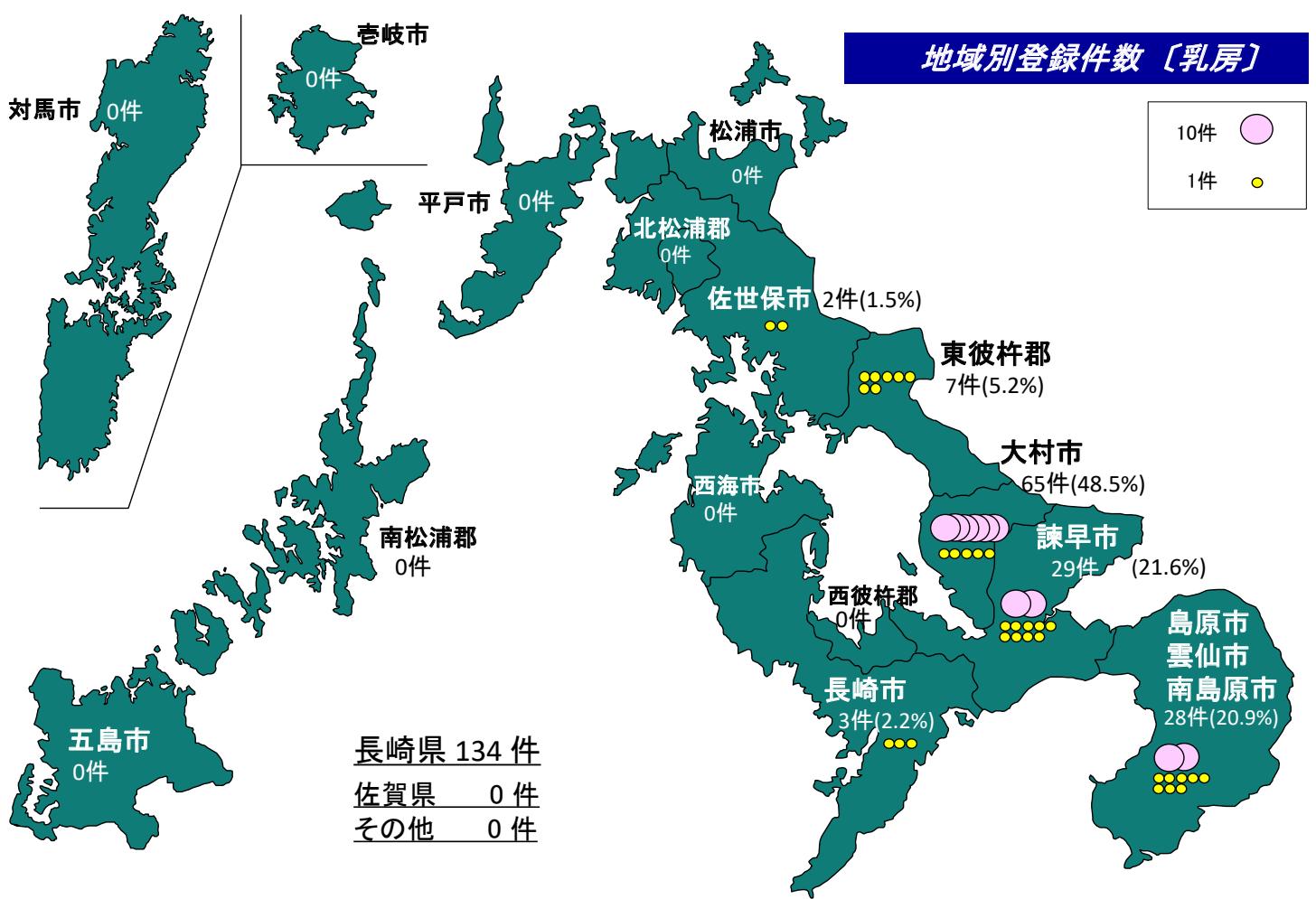
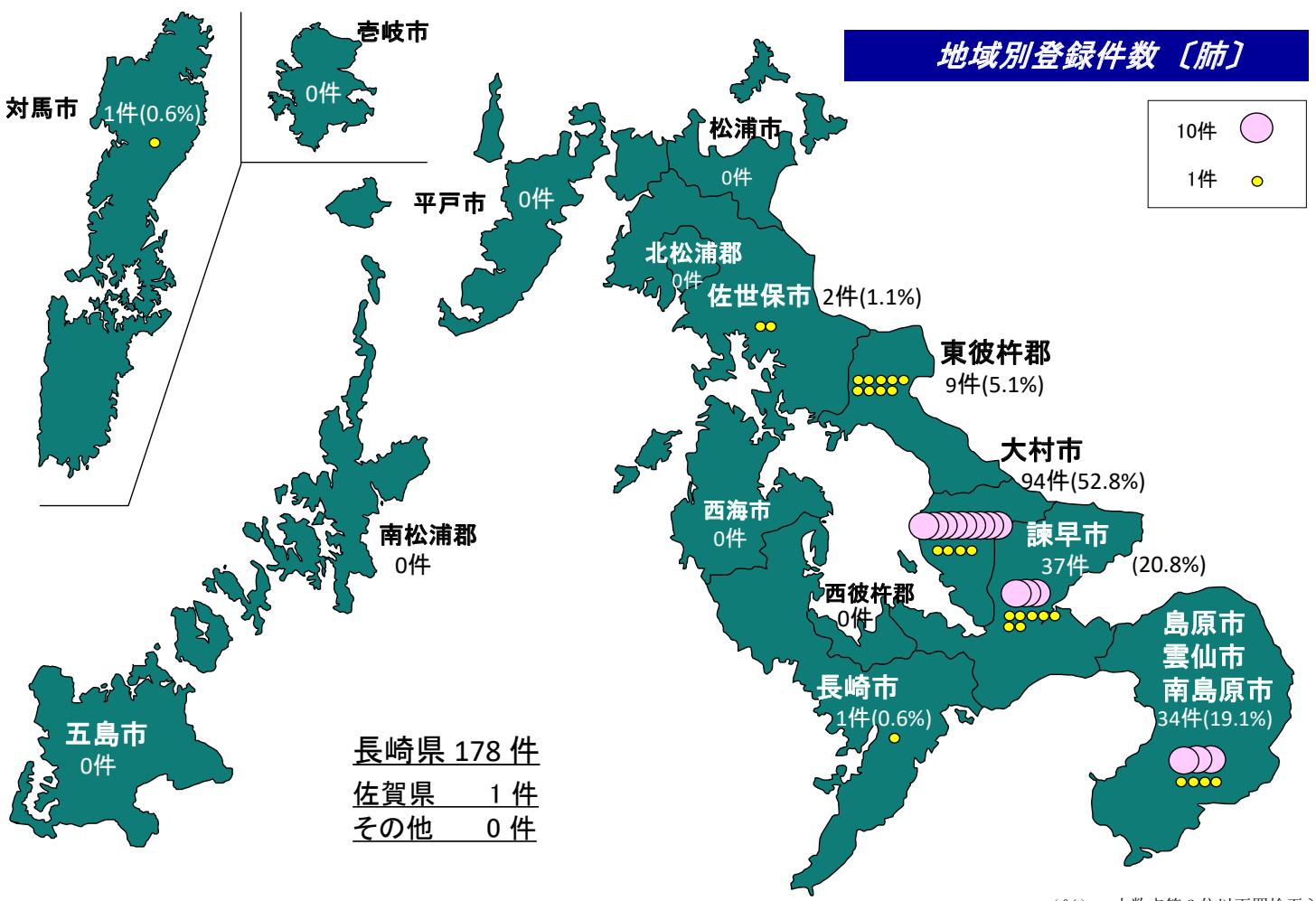


年齢別登録件数 [女性]

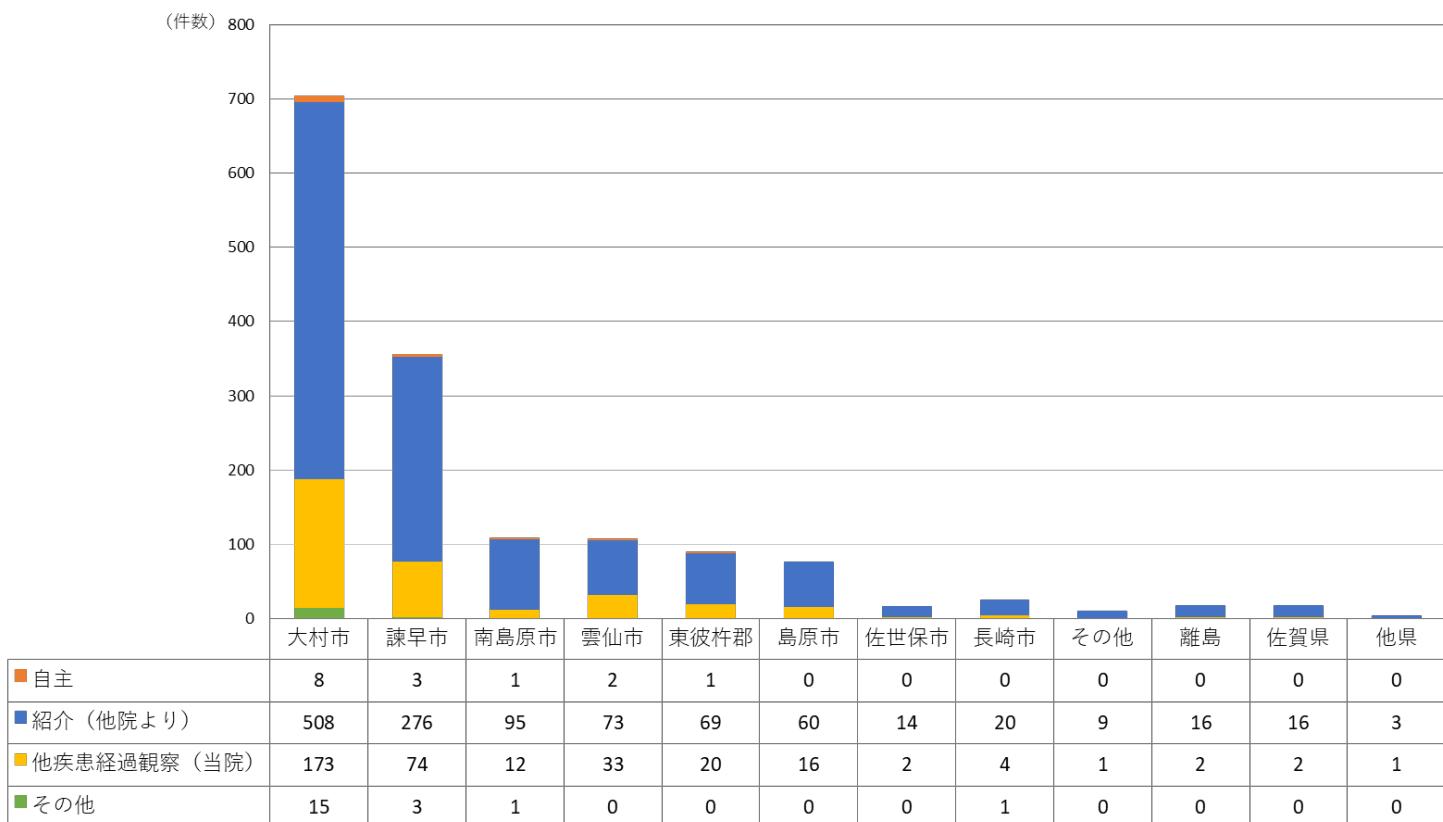




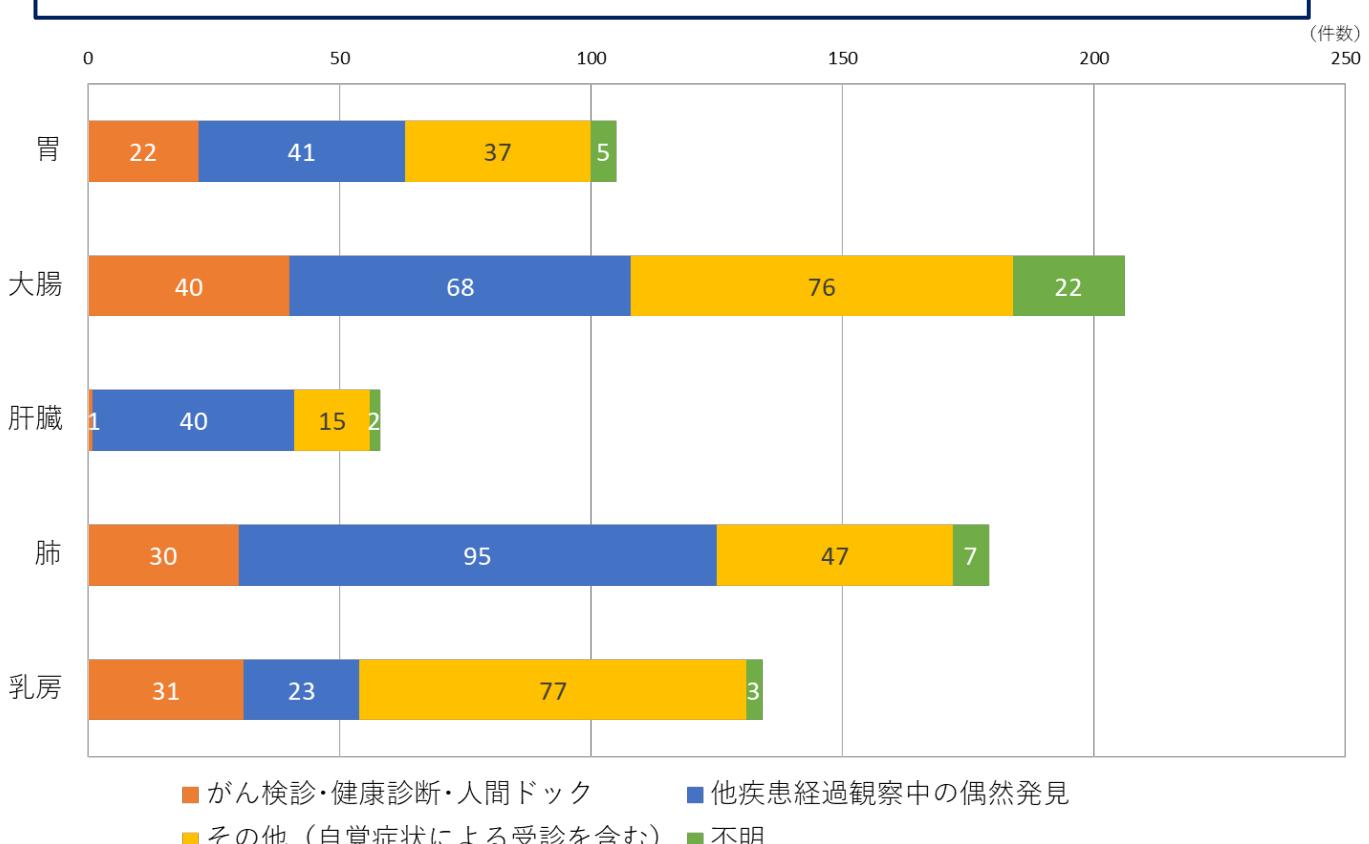




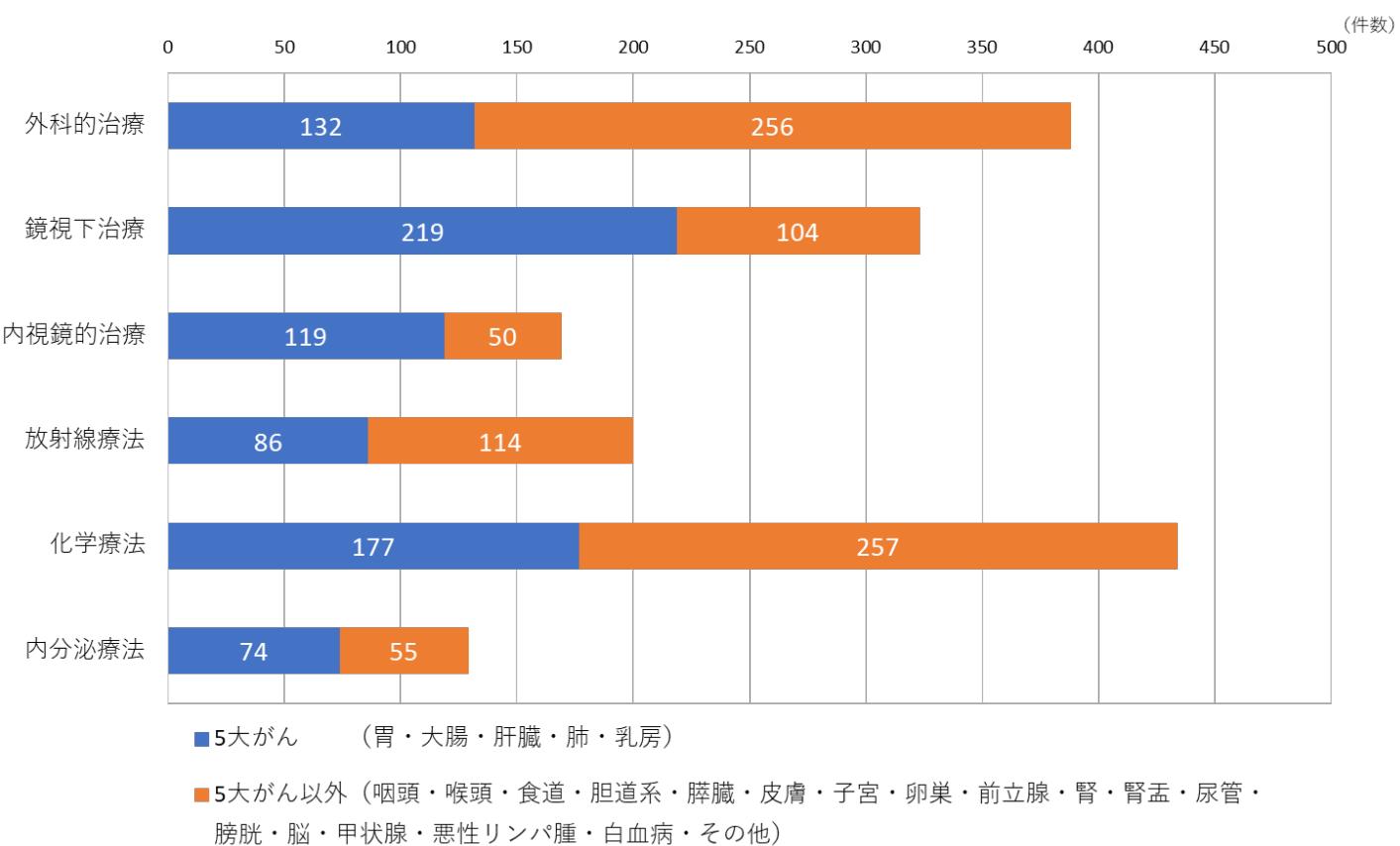
来院経路 (地域別)



発見経緯 (5大がん)

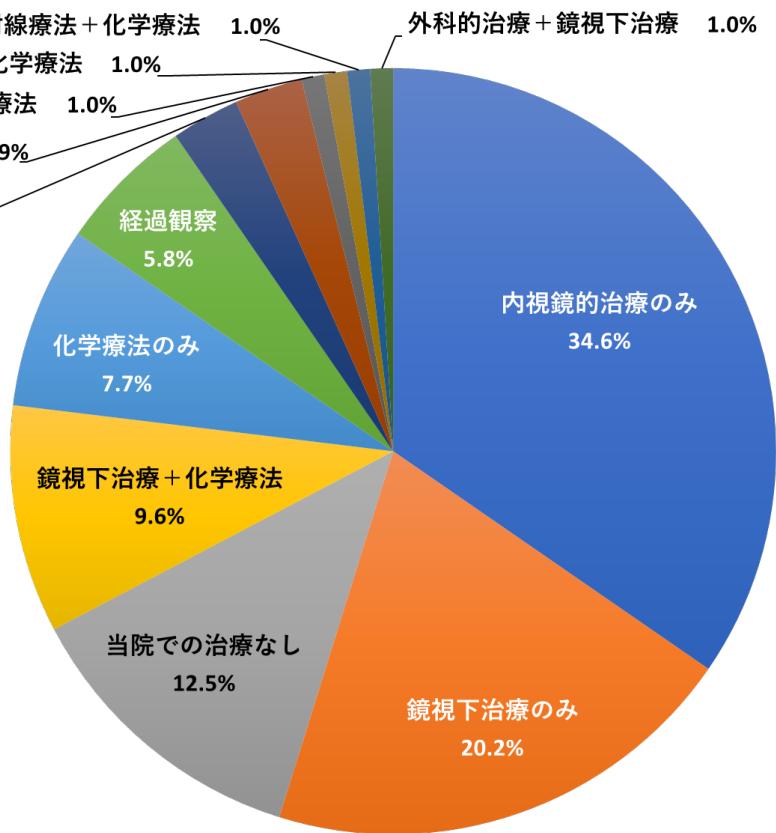


初回治療方法



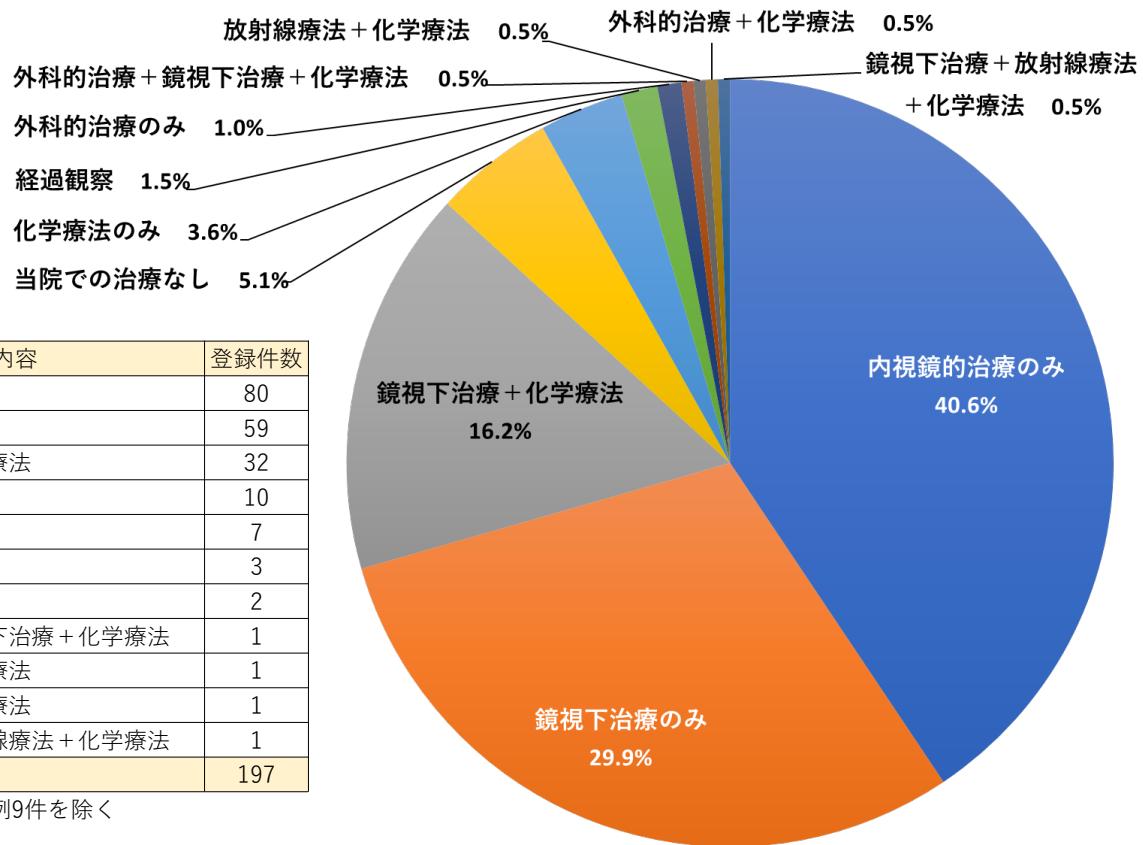
胃がん 初回治療内容 [2022年診断症例]

治療内容	登録件数
内視鏡的治療のみ	36
鏡視下治療のみ	21
当院での治療なし	13
鏡視下治療 + 化学療法	10
化学療法のみ	8
経過観察	6
外科的治療のみ	3
鏡視下治療 + 内視鏡的治療	3
外科的治療 + 鏡視下治療 + 化学療法	1
外科的治療 + 化学療法	1
鏡視下治療 + 放射線療法 + 化学療法	1
外科的治療 + 鏡視下治療	1
総計	104

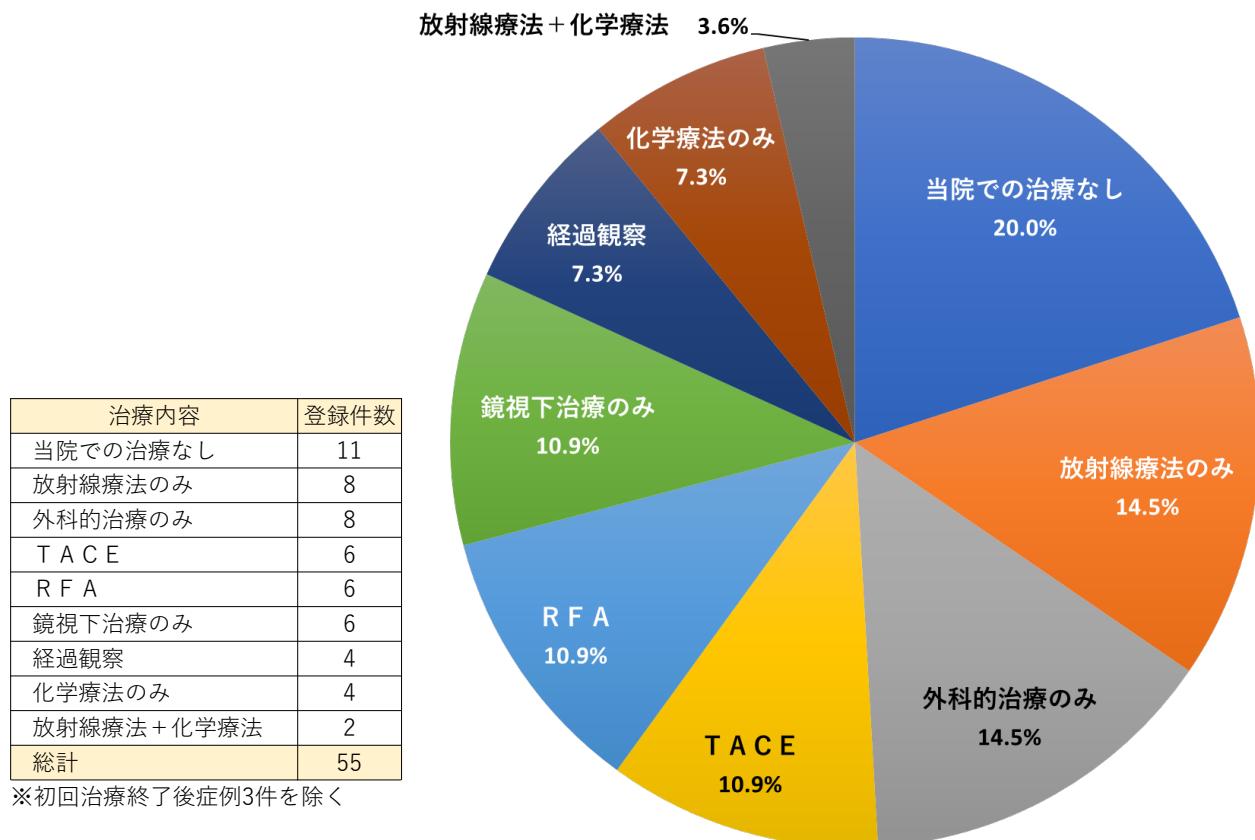


※初回治療終了後症例1件を除く

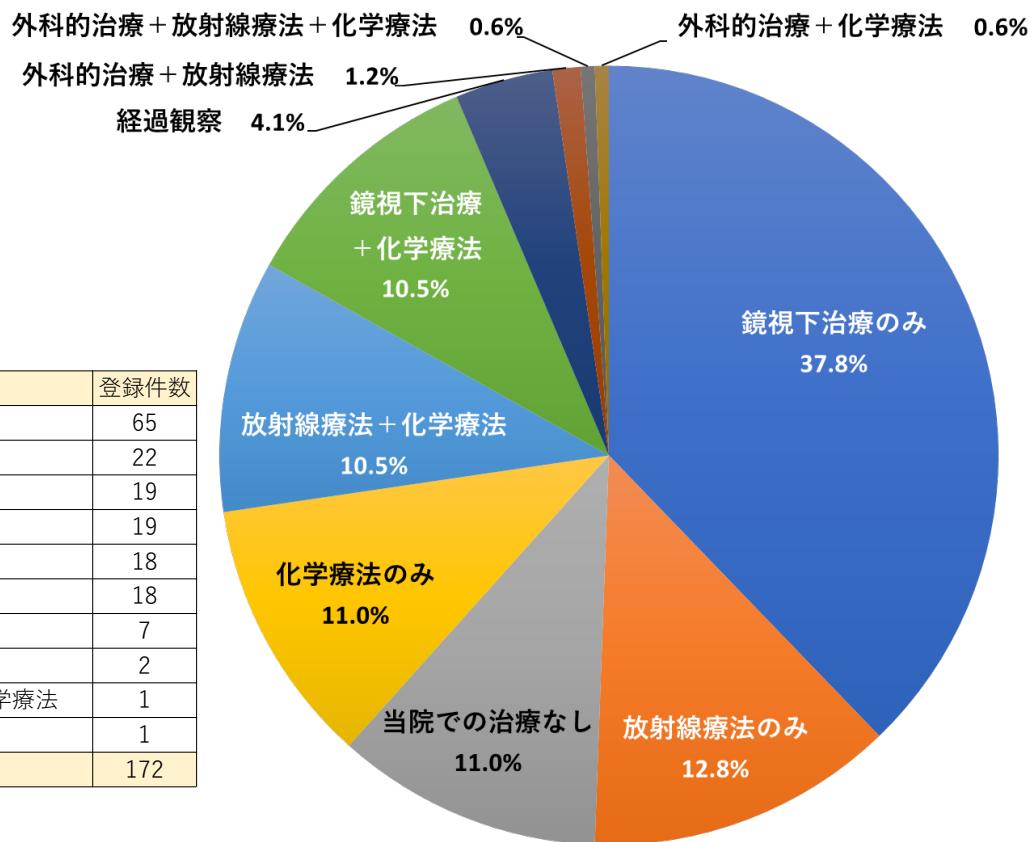
大腸がん 初回治療内容 [2022年診断症例]



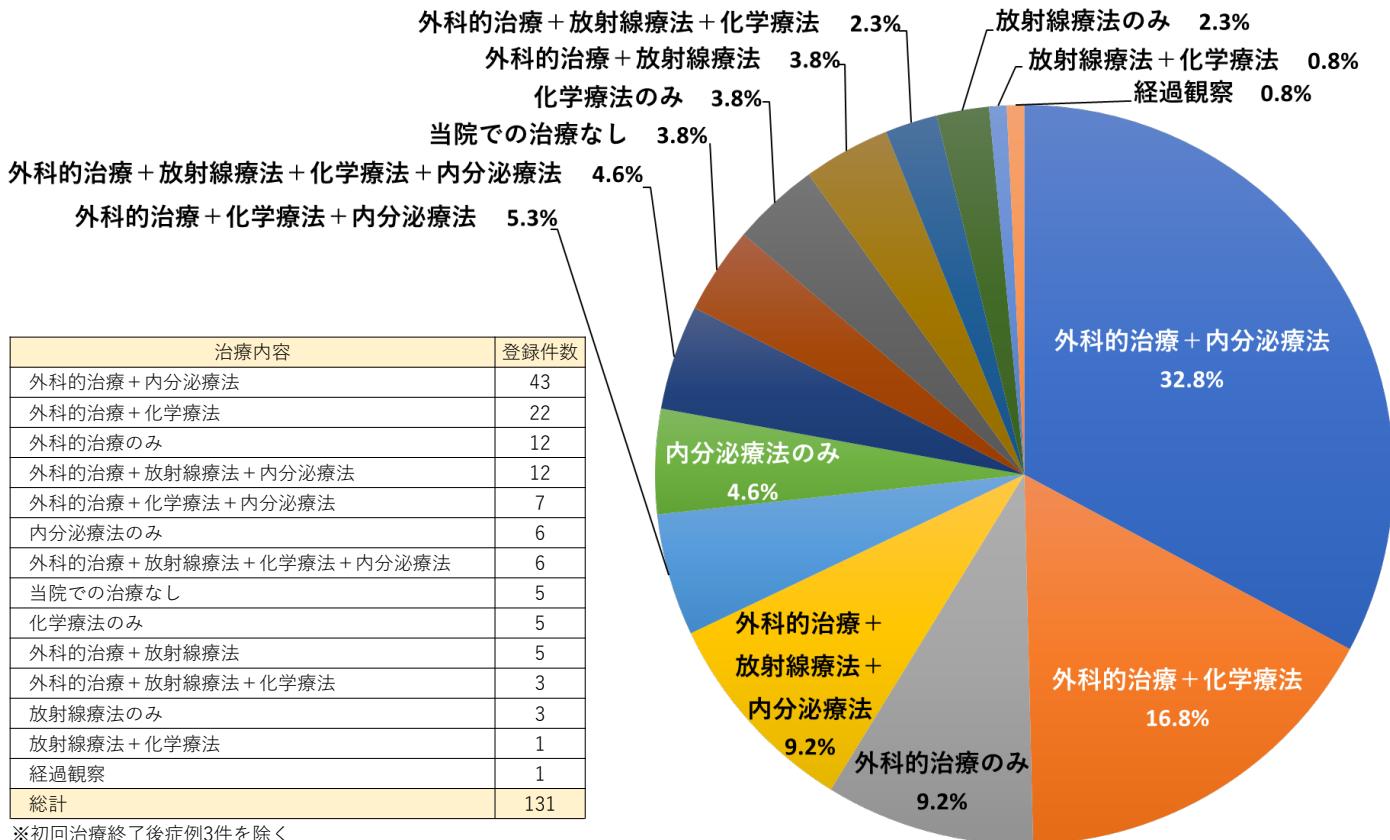
肝がん 初回治療内容 [2022年診断症例]



肺がん 初回治療内容 [2022年診断症例]



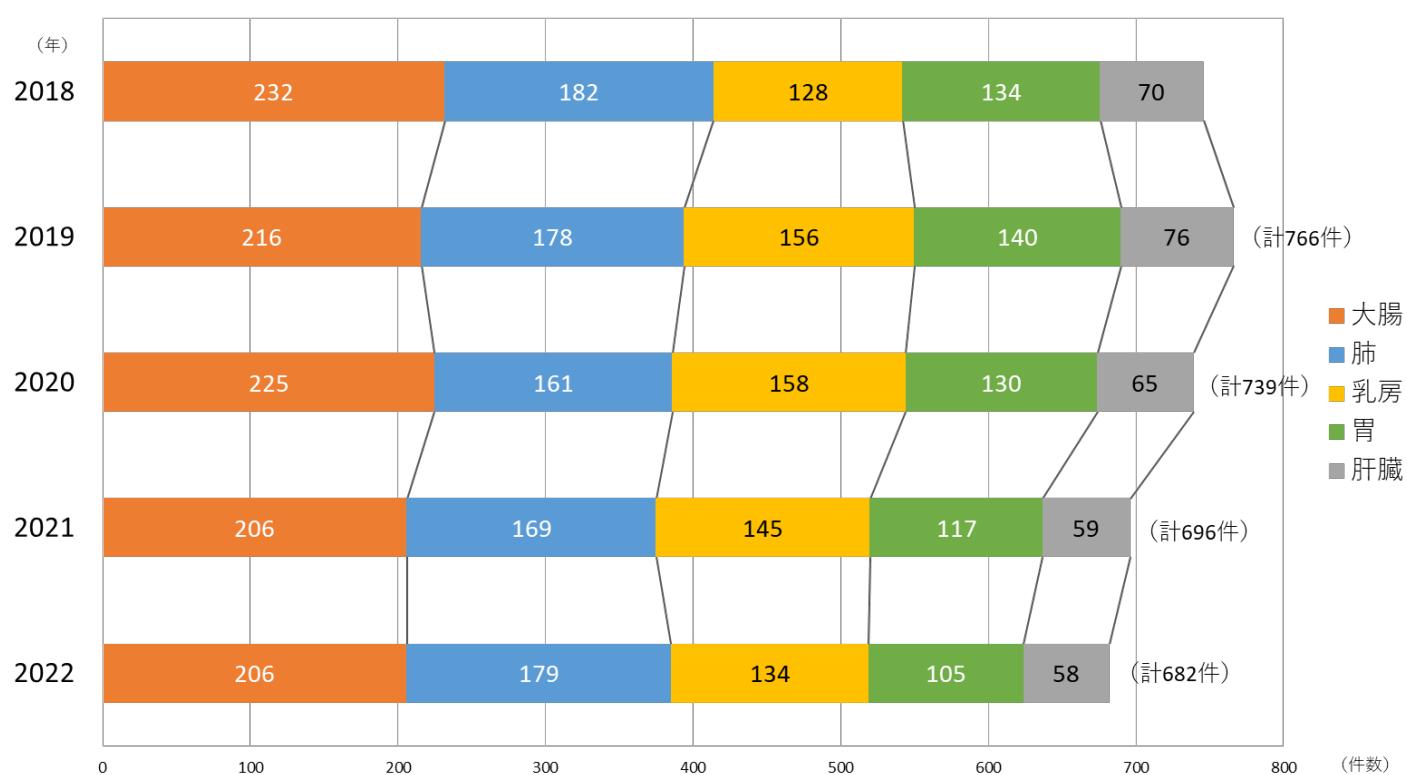
乳がん 初回治療内容 [2022年診断症例]



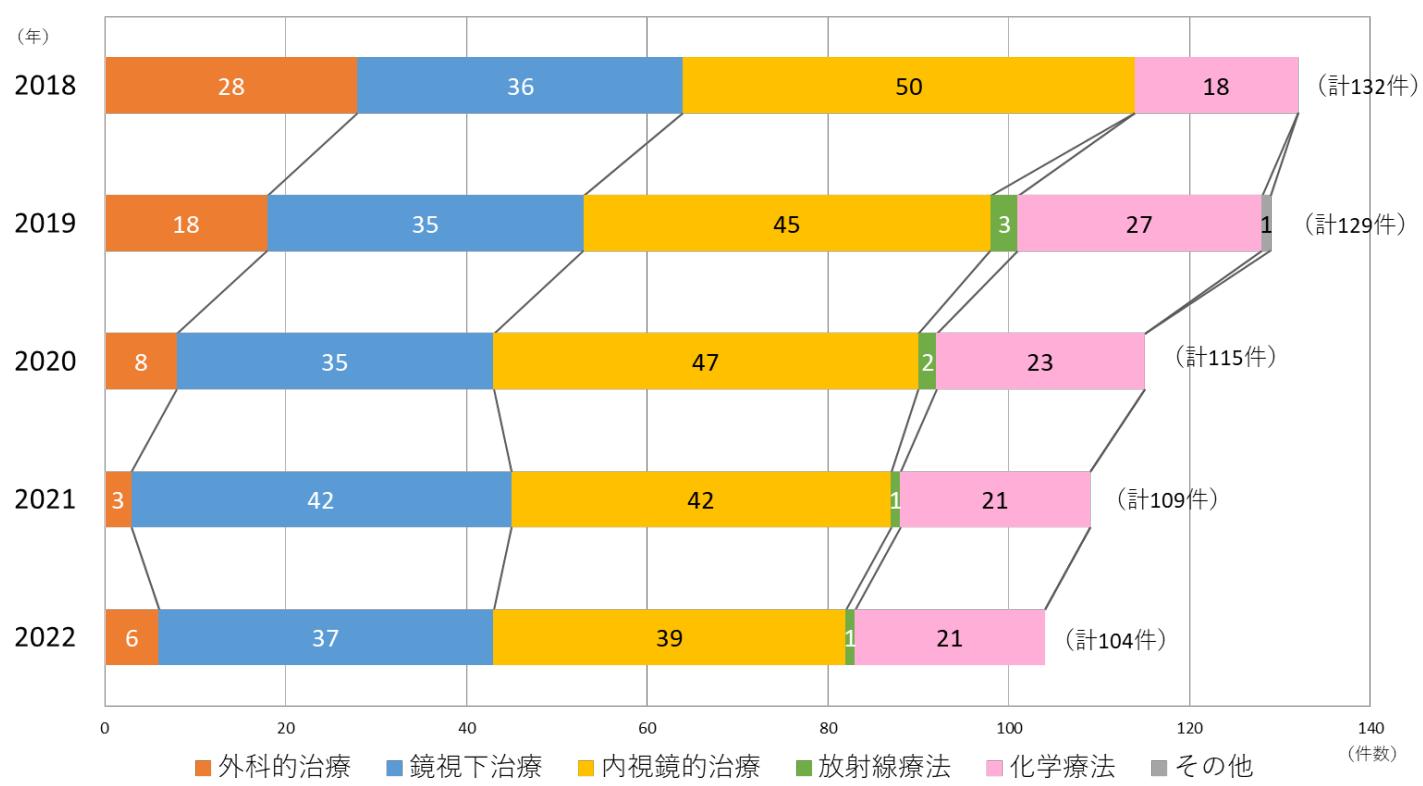
2018～2022

年 次 推 移

登録件数（5大がん）の推移

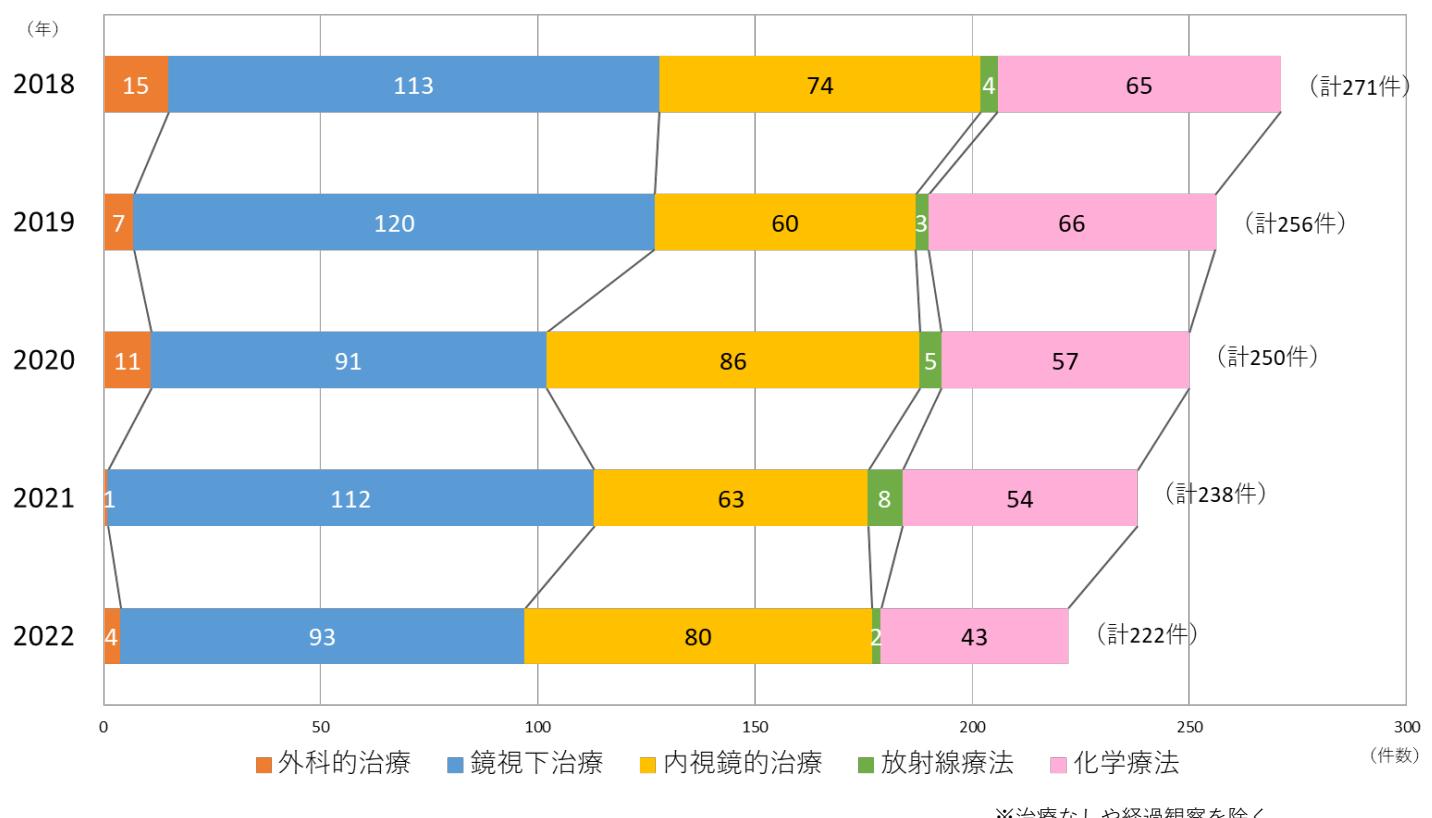


初回治療方法（胃）の推移

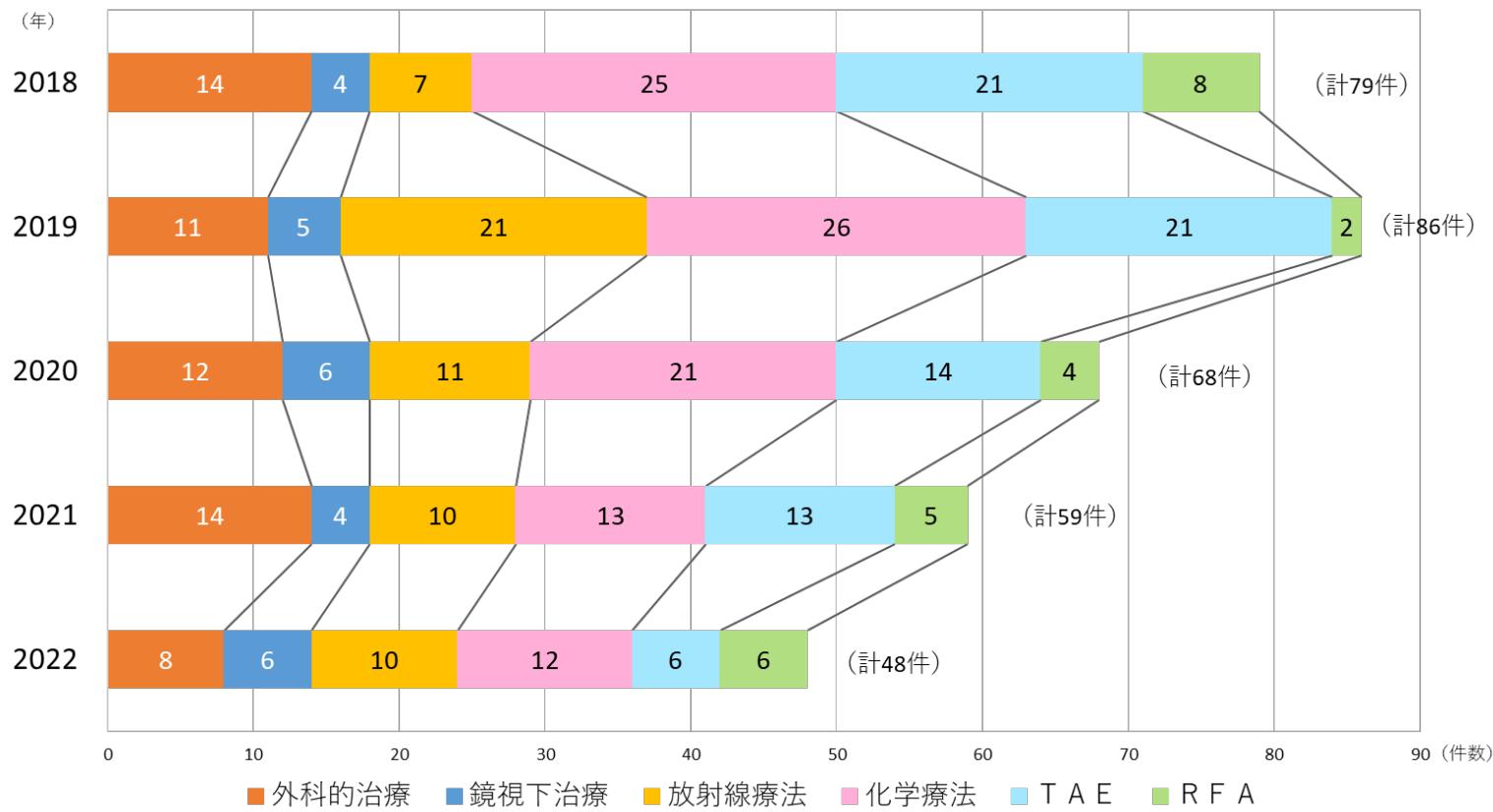


※治療なしや経過観察を除く

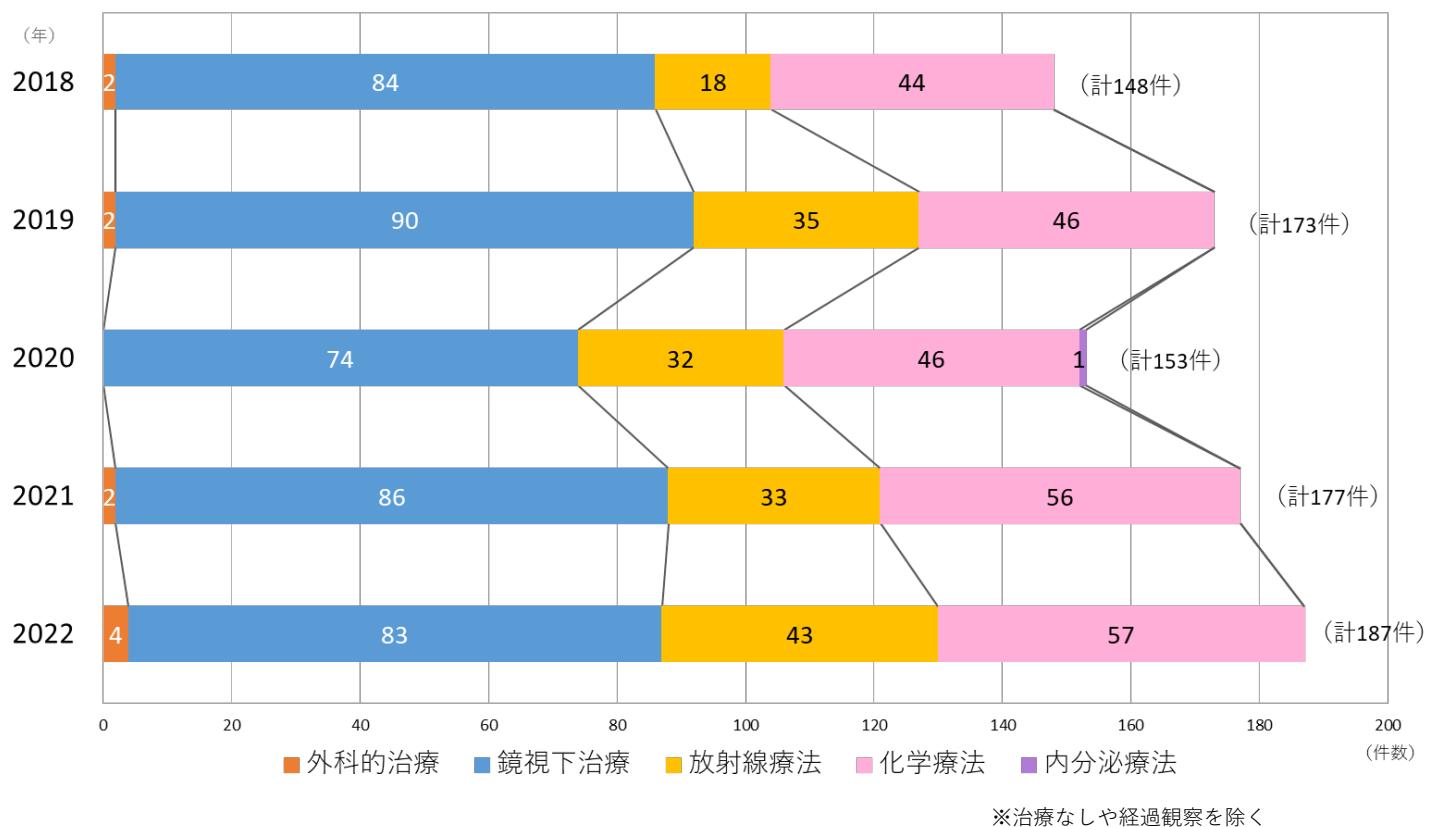
初回治療方法（大腸）の推移



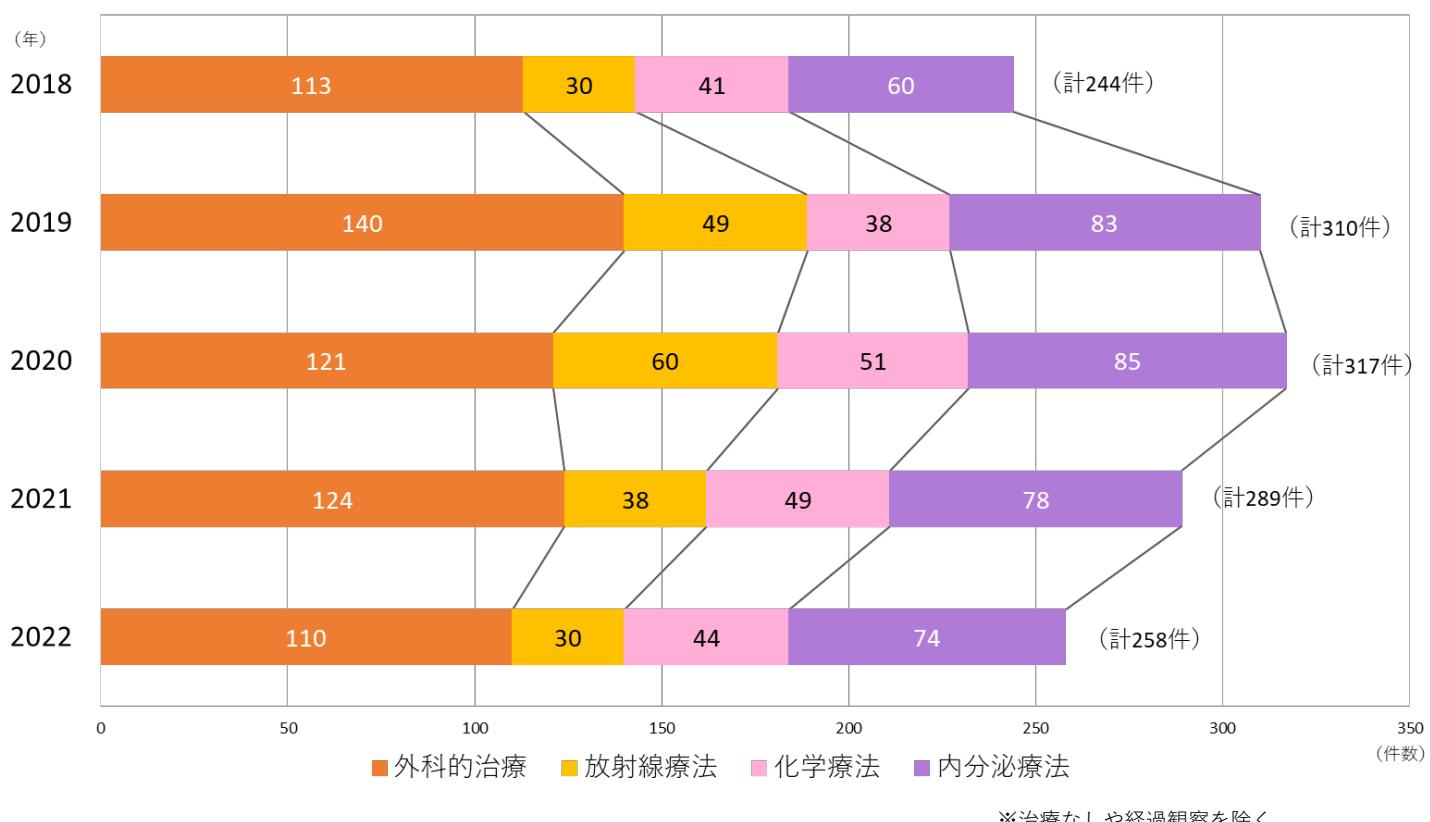
初回治療方法（肝臓）の推移



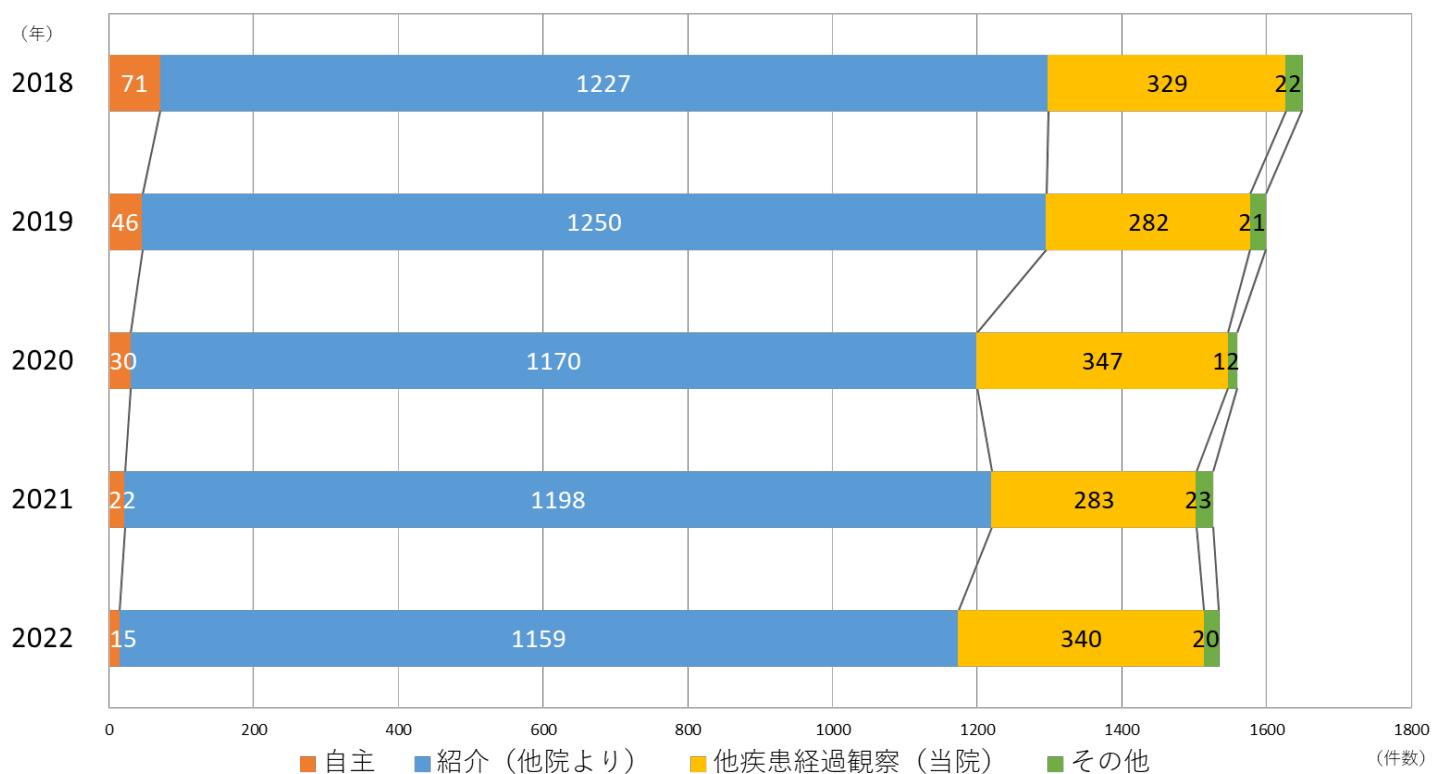
初回治療方法（肺）の推移



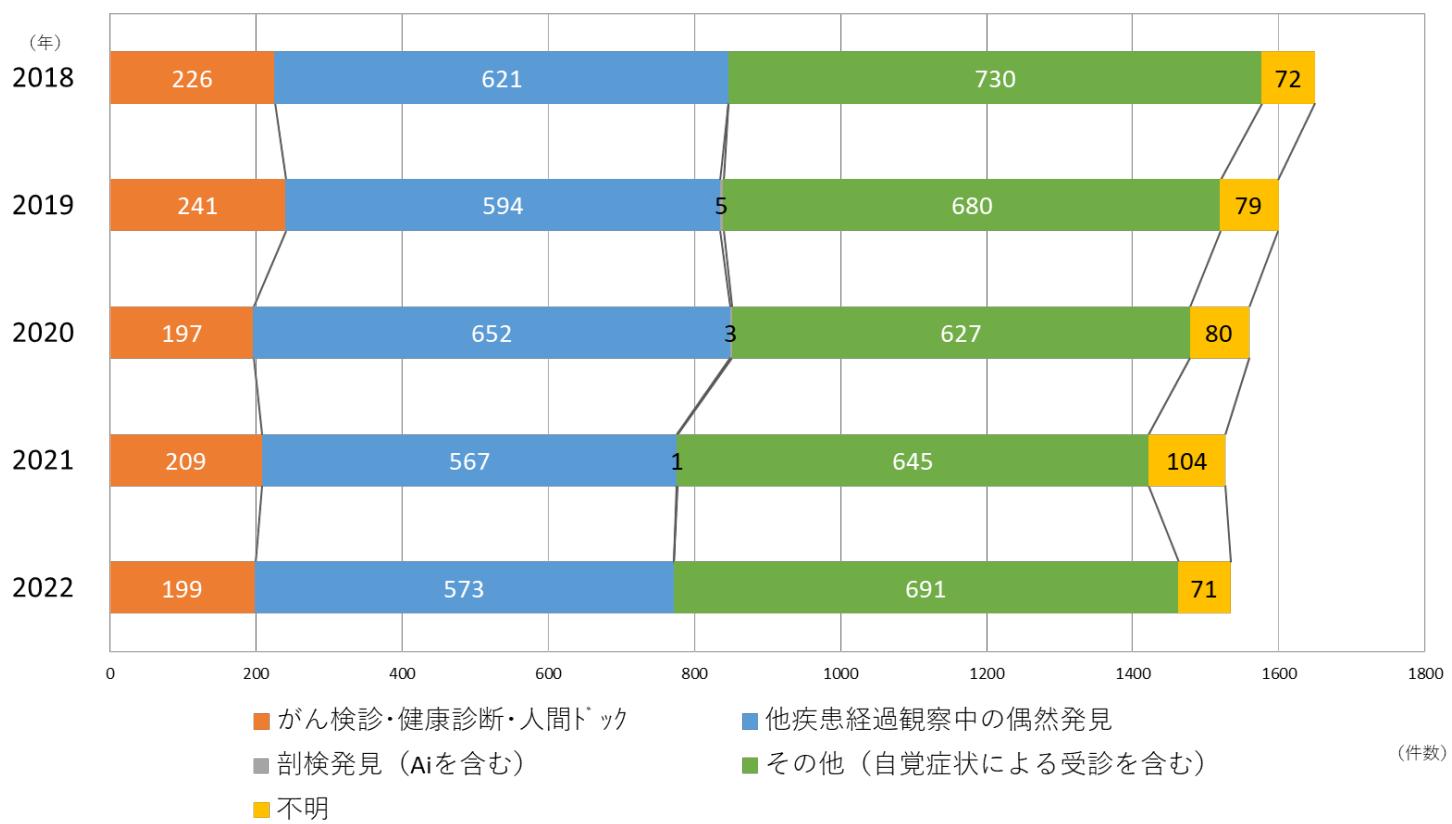
初回治療方法（乳房）の推移



来院経路の推移



発見経緯の推移



編集後記

長崎医療センター腫瘍集計報告が完成しました。

今回は、長崎医療センターにおいて 2022 年に実施されたがん診療について、部位別・年齢別・地域別のがん登録件数と初回治療の内容、そして 2018 年から 2022 年まで 5 年間での登録件数、初回治療、来院経路、発見推移の推移についてまとめています。2020 年から始まった新型コロナウイルス感染症は、2023 年 5 月より 5 類に移行となり、社会生活は急速にコロナ前に戻りつつありますが、医療の世界ではまだまだ影響が続いている。今回報告の 2022 年は感染力を増したオミクロン株とその変異株が第 6 波、第 7 波、第 8 波と次々に猛威を振るった 1 年で、がん診療においても入退院の制限、予定手術の延期、病棟内クラスターの発生、そして面会の禁止・制限など、大変大きな影響を受けました。今回の報告は、地域でのがん診療に新型コロナウイルス感染症が及ぼした影響をこれから評価していく上でも、大変有用な情報になると考えます。

長崎医療センターにおける院内がん登録は 2004 年から開始され、これまで質の高い貴重なデータが蓄積されています。二次利用も可能ですので、診療の分析や研究など、ぜひ有効に活用して下さい。

最後になりましたが、今回も大変速やかに、そして詳細に報告書をまとめて頂きました診療情報管理室がん登録部門の皆さんに、厚くお礼申し上げます。

2023 年 12 月

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター
副院長 吉田 真一郎

NATIONAL
NAGASAKI
MEDICAL CENTER



独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター

〒856-8562 長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL. 0957-52-3121【代】 FAX. 0957-54-0292
<https://nagasaki-mc.hosp.go.jp>